

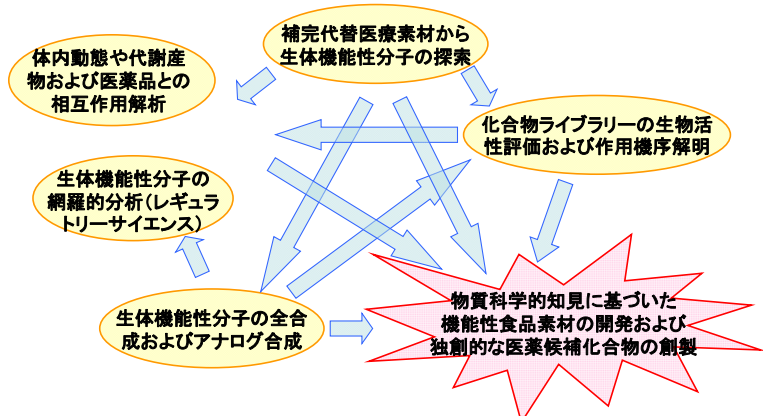
ディビジョン番号	7
ディビジョン名	天然物化学・生命科学

大項目	2. 生物系天然物化学
中項目	2-2. 天然有機化合物とそのモデル化合物の化学合成
小項目	2-2-2. 食品薬学、生命分子科学、生物有機化学、生体機能物質

概要	<p>わが国における補完・代替医療分野への取り組みは欧米先進諸国に比べ立ち遅れている感が否めない。急速に高齢化を迎えるわが国においては、疾病の治療を一義とし、鋭い効力を発揮する医薬品の探求・創成とともに、健康の維持・増進、または、免疫力の亢進を意識した補完・代替医療の普及が肝要である。そのためには、わが国が得意とする医薬品の創成で培った生物分子科学的手法を用いた補完代替医療素材の科学的評価が欠かせない。</p>
	<p style="text-align: center;">統合医療 (インテグレイティブ・メディシン)</p> <p>現代西洋医療 (通常医療) 補完医療 (コンプリメンタリー・メディシン) 代替医療 (オルタナティブ・メディシン)</p> <p>代替医療体系... 伝統医学体系、民族療法など 生物学に基づく療法... ハーブ、食品、生物活性分子など</p> <p>生体機能性分子の探索</p>
現状と最前線	<p>高齢化社会の進展を受け、多くの国民が医療に頼らず健康食品やサプリメントなどを利用するセルフプリベンションにより積極的に病気の予防や健康の維持・増進を意識する傾向にある。昨今、国民の健康志向の高まりは非常に強い。欧米諸国においては、1990年代初頭から補完医療（コンプリメンタリー・メディシン）や代替医療（オルタナティブ・メディシン）に用いられるハーブ類を中心に、有効性を科学的に証明しようとする機運が高まり、イチヨウ葉エキスやブルーベリーエキスなどに代表されるように、新たに医薬品として規格化されたエキス製剤なども認められる。さらに現代西洋医療（通常医療）と組み合わせることによって、とりわけがんをはじめとする難治性疾患に対して相補的に治療を行う統合医療（インテグレイティブ・メディシン）という概念も生まれている。欧米の先進諸国においては、補完代替医療の利用頻度は、近年急速に増加傾向しており、これに呼応して、例えば米国では当初年間200万ドルの予算で始まった取り組みが、現在では年間約1億ドル以上の予算が米国国立補完代替医療センター（NCCAM）に配分され、補完代替医療の情報収集・発信、科学的検証に積極的に取り組んでいる。米国では高齢化社会における慢性病（がんや糖尿病・脳卒中・心臓病など生活習慣病など）の予防や治療には、生活習慣（ライフスタイル）など全体的・全人的にアプローチする補完代替医療のほうが、原因撲滅型・対症療法型の現代西洋医学より、患者、国家財政双方にとって、より効果があるとされている。英国においても、1983年、The Research Council for Complementary Medicine (RCCM) が設置され、また、国家レベルでの補完代替医療の研究（5カ年計画）が進められている。ドイツは、主要先進国の中では最も補完代替医療が活用されている国である。</p>

わが国でも、国民の自己健康管理への関心、患者自身の治療選択における自己決定意識の高まりに加え、インターネットの普及による健康・医療情報へのアクセスが容易になったことから、実際の医療現場では補完代替医療の利用者が急速に増加していることが指摘されている。2001年に厚生労働省がん研究助成金による研究班が組織され、わが国におけるがんの補完代替医療の利用実態調査が全国規模で行われ、同医療の現況と重要性が報告された。また同年、特定の優れた機能を有する食品を特定保健食品、また、一定の機能を有する食品を栄養機能食品と分類することが制度化され、食品については一定の科学的評価が加えられはじめてはいるが、これらは主に食品メーカーの商業的意図に負うところが大きく、補完代替医療の普及を促すための素材への科学的根拠の付与という点では十分ではない。

わが国においても補完代替医療素材、特に健康補助食品・サプリメントの有効性を科学的に証明し、効果の認められたものについて積極的に普及を図ることは、高齢化社会の要請に応じた今日的な施策と考えられる。わが国が得意とする医薬品の創成で培った生命分子科学的手法を最も有効に活用できる分野であり、その成果が期待される分野でもある。下図に示すような生命科学各専門分野の研究者との緻密な連携によって、物質科学（マテリアルサイエンス）の立場から、補完代替医療に供される天然薬物の科学的な評価を行い、西洋医療で用いられる化学療法剤（既存医薬品）を補完しうる機能性素材の開拓、さらには独創的な医薬候補物質の創製に繋げることが望まれる。



参考文献：がんの補完代替医療ハンドブック、編集；厚生労働省がん研究助成金「がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究」班 監修；日本補完代替医療学会

将来予測と方向性

- ・ 5年後までに解決・実現が望まれる課題
 - ・ 健康補助食品・サプリメント等の有効性を科学的に検証するためのプロトコルの確立
 - ・ 生活習慣病、メタボリックシンドローム、慢性病等、医薬品の適用にはそぐわない症状を緩和する機能化合物の食品からの探索およびそれらの化学合成による大量供給法の確立
- ・ 10年後までに解決・実現が望まれる課題
 - ・ 補完代替医療素材からの健康の維持・増進、免疫力の亢進またはアンチエイジング作用を有する医療薬品候補化合物の探索とこれらの作用を有する医薬品の創成

キーワード

補完代替医療、統合医療、生体機能物質、生活習慣病、医薬品候補化合物

(執筆者： 村岡 修)